

(別添様式1) ※A3判(1枚)に収める。「わがまちの道徳教育推進」プランの内容と事業実施計画書及び報告書との整合性に留意して記載すること。

「わがまちの道徳教育推進」プラン		所管する小学校名	池川小学校、別府小学校、長者小学校		校数	3校		計	5校	
仁淀川町教育委員会		所管する中学校名	池川中学校、仁淀中学校		校数	2校				
道徳教育推進方針		学校・家庭・地域が一体となった道徳教育の推進 ～夢や希望を持ち、生きがいを感じながら郷土や社会に貢献できる子どもの育成～								
年度当初の拠点地域の状況(4月調査を記載)		到達目標		中間検証(下半期に向けての改善事項)		到達目標達成状況				
道徳性に関する現状		肯定%	道徳意識調査の肯定的回答の割合の向上		道徳意識調査の肯定的回答の割合		道徳意識調査の肯定的回答の割合( )内は目標値			
①道徳の勉強は、すきだ		86.4%	①「道徳の勉強は、すきだ」年度当初 → 95%以上		①91.4% ②95.9% ③57.5 ④88.7% ⑥94.6%と向上が見られた。⑤、⑦については、若干下がっているが高い水準を保っているため、後半は100%を目指す。		全体の結果は①94.1%(95) ②94.1%(100) ③73.9%(80) ④91.0%(100) ⑤93.2%(95) ⑥95.9%(100) ⑦98.6%(95)となった。			
②道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている		94.9%	②「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」年度当初 → 100%		1. 推進会議を3回行った。その中で、取組の共通認識を図ることができた。下半期も中間検証の結果を基に実践、検証を行っていく。		到達目標は教師が目指すべき高めの数値を設定したこともあり、目標を達成できたものは⑦だけとなったが、全ての項目において概ね期待する結果となった。			
③家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む高知の道徳」を読んだりしている		46.0%	③家の人と道徳の話をしたり、「家庭で取り組む高知の道徳」を読んだりしている 年度当初 → 80%以上		2. チェックシートを活用した授業については小中学校共に定期的実施できており、下半期も同等の活用をし、さらなる授業改善で授業力チェックシートにおける小中共通項目の達成を目指す。		①については、「考え議論する道徳」をテーマに取り組み、主体的に対話する子どもの姿も増えてきたと感じている。②については大幅な数値の伸びはなかったが、授業力チェックシートの児童生徒の集計結果においても『8. 話し合い』の項目において最大4P中、3.8Pと高く、対話を大切に授業が展開できた。今後はより、対話の質を向上させ、多様な価値観の受容や自身の考えの深まりに繋がっていくよう校内研究体制を強化し授業改善を行っていく。			
④自分には、よいところがあると思う		86.9%	④「自分には、よいところがあると思う」年度当初 → 100%		3. 小中それぞれに1回ずつ授業研究を行い、これからの道徳科の授業づくりや評価の在り方について学習できた。しかし、各校全教員の授業力については、まだまだ改善の必要性を感じる。校内研や授業づくり講座などを有効に活用し授業力の向上と道徳科の内容理解の充実を図っていく。		③については、「家庭で取り組む高知の道徳」の活用について、教育委員会や各校において道徳通信の発行やPTAが参加する会議等で声がけ等積極的に行う事により、家庭の意識変化へと繋がった。道徳参観日の実施に向けた家庭へのアプローチも効果的であったが、担任の意識次第で家庭と連携した道徳教育が実現可能だと手応えを感じた。			
⑤将来の夢や目標をもっている		92.9%	⑤「将来の夢や目標をもっている」年度当初 → 95%以上		4. 「高知の道徳」の活用については、各校において家庭に対してアプローチはできているが定着はまだできていないので、道徳通信の発行や標語コンクール等を通じて意識を高めていく。		④⑤については、決して低い数値ではないが、生きていくうえでのエネルギーとなる自尊感情・夢・志の項目なので次年度以降も100%を目指して取り組んでいく。			
⑥人が困っているときは、進んで助けている		93.4%	⑥「人が困っているときは、進んで助けている」年度当初 → 100%				⑥以降の項目については、「学校での道徳教育」、「家庭での心の教育」の先に育むことのできる「資質・能力」であることを考えると、教師は常にその事を自覚し親の道徳意識の向上に向けたアプローチの工夫や協力を得る事に努め、地域・学校・保護者が連携した取り組みを強化していく事が大切だと推進教師らと確認した。			
⑦地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる		92.9%	⑦「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」年度当初 → 95%以上							
到達目標達成のための取組		取組計画			指標達成状況の分析					
取組項目	取組の評価指標	5月～8月		中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)		達成状況		年度末評価	
道徳教育の主体的な推進体制の整備	◆小・中学校において、道徳教育推進のための校内体制ができる	①道徳教育推進協議会(5回) ・小中の道徳教育推進教師を中心とした推進体制の確認 ・児童生徒意識調査結果の協議・取組策の検討		B	①道徳教育推進協議会(3回) ②先進校視察研修による効果的な取組の共有 ※香川県 詫間中学校(11月8日) ※奈良県 三碓小学校(11月14日～15日)		視察研修での学びや推進会議で共有した情報を、道徳教育推進教師と管理職を中心に、校内研修等で各教職員と確認できた。また各校において公開授業研などを行い、授業改善にむけた推進体制が強化された。		A	
道徳科の趣旨を踏まえた指導方法及び評価の在り方に関する道徳の授業実践の研究	◆道徳授業力チェックシート【教師用】【児童生徒用】におけるポイントを年度当初より向上させる	①各学年において、道徳の趣旨を踏まえた道徳授業の実施・道徳教育の授業参観とチェックシートへの記入(年度当初) ②大学教授や県教育委員会指導主事を招聘した研修の実施(5～8月) ③道徳授業力チェックシート結果の協議・授業改善策の検討 ④授業づくり講座への参加		A	①先進校視察研修による、道徳科の趣旨を踏まえた指導方法や評価について学ぶ 《講演》文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官 浅見哲也氏 「考え、議論する道徳科の創造」 飯塚彦彦氏 「道徳科の指導の充実に向けて留意する事」 ②道徳授業力チェックシートの検証を踏まえた授業改善に基づく報告・検証(1月)		○道徳授業力チェックシート 教師・・・10項目中9項目のポイントが上昇 児童・・・応答、話し合い、板書の項目の数値が上昇。残りはほぼ全ての項目が現状維持(全項目3.7P以上) 視察研修での公開授業、事後協議での指導助言、研究発表等を通じて多くの学びを得ることができた。授業づくりについては、題材理解の徹底、学びに向かわせる導入、見取りの重要性、発問や問い返しの工夫、評価のポイント、対話の質を高める授業者の実践の重要性等を再確認でき、道徳科の授業の目指すべきゴールの姿を町全体で共通認識できた。 文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官の講話から道徳教育の必要性やあり方について学ぶ事ができた。 授業力チェックシートを活用した事後協議のおかげで、目指すべき授業の視点を共有でき、今後の道徳の授業改善に向けた推進体制を構築することができた。		B	
小小連携・小中連携による小・中学校の道徳教育の充実	◆公開研究授業に各校から参加をし、取組みの共通理解を図る ◆研究授業の実施価値項目の重点項目を決めて道徳意識調査等のアンケートのポイントを年度当初より向上させる	①公開研究授業(各校種1回ずつ)①長者小、②仁淀中 ②道徳教育推進協議会における小中の道徳の全体計画の確認 ③道徳意識調査、問題行動等調査等を行う(年度当初、中間) ④道徳授業力チェックシートを活用した授業参観・協議		B	①道徳教育推進協議会における取組の成果報告、改善策検討 ②道徳意識調査、問題行動等調査等を行う(年度末)		○公開授業研究会2回実施(参加者総数42名) 道徳推進教員、会場校教諭が事後協議に参加し高知大学 森有希准教授からの指導・助言を受けた。特に授業方法と評価について指導を受けることができ、以後の実践に繋がった。 ○道徳意識調査・・・上段に記載 高い到達目標にしたこともあり到達できた項目は少ないが、全体的に年度当初より数値は上昇した。項目3の県作成資料「高知の道徳」の活用以外の項目が90%以上		A	
学校・家庭・地域の連携を図った町ぐるみの道徳教育の推進	◆「高知の道徳」を家庭で、家族と一緒に読む等の取組を学期に1回以上実施する ◆各校における道徳参観日参加率を向上させる	①道徳参観日(各校で実施) ・「高知の道徳」の活用について保護者へ説明(小中学校) ②家庭・地域との連携の方策の具体策の協議 ・未来社会やこれからの教育について保護者等に伝え、家庭や地域が学校と共に子どもを育てようとする意識を高める。 ・「高知の道徳」の計画的な活用(学校及び学級通信等での紹介) ・道徳参観日やPTA総会、開かれた学校づくりにおいて、「高知の道徳」の活用を促していく		C	①道徳参観日(各校で実施) ・「高知の道徳」の活用について保護者へ説明(小中学校) ②今後の家庭・地域との連携の方策の具体策の協議(11月) ・次年度に向けた学校、家庭、地域の連携内容の検討 ③道徳標語コンクールを実施し、家庭と学校が道徳教育に興味と関心を持ってもらうと同時に、児童・生徒の心の成長を目指す		○人権・道徳参観日 各校の保護者参加率上昇 ○道徳標語応募数・・・333点(保護者・地域の方含む) ○道徳通信発行(地教委版)・・・6回 ○家庭での高知の道徳の活用(意識調査)・・・46.0→73.9% 各校道徳参観日を実施し、保護者と一緒に道徳教育について考える事が出来た。資料「高知の道徳」の活用については地教委・学校がそれぞれの立場で啓発・協力依頼を行い家庭と連携した道徳教育を推進できた。 年度末には各校で実践した活用方法の事例集を作成し、各校に配布する。本資料を活用しながら今後も家庭と連携した道徳教育を推進していく。		B	

※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)